



北海道型ワーケーション普及・展開事業

つながる。HUBest

人と地域がつながるベストな場所が北海道にはある

「つながる。ハーベスト」とは？
「新しい働き方」として注目されているワーケーション。その魅力のひとつでもある、人と地域とのつながりを通じて新たな活動を生み出すことができるワーク施設と、そこでの出会いを創り出すコンシェルジュをインタビュー形式で紹介いたします。

第九弾 斜里町

しれとこらぼ



とよしま かずとし
豊島 和敏さん
(一社) 知床スロウワークス 会長



無料とは凄いですねー改めてこちらを立ち上げた経緯や施設のコンセプトを教えてください。

斜里町では、平成27年に総務省の「ふるさとテレワーク実証事業」に採択されたことを機にテレワークの呼び込みを始めました。当時はテレワークがあまり認知されていない時代でしたが、行政よりも民間の人間が対応した方が良いとの声があり、町内の不動産業や司法書士、ペンション経営など様々な業種に携わる有志が集まり、「知床スロウワークス」を立ち上げました。

「知床スロウワークス」では具体的にどのような取組をされていますか？

仕事支援としては「しれとこらぼ」の管理運営、テレワーカーに対する生活支援としては町内の飲食店や観光情報の提供等を行っています。首都圏から来られる方は、きっと斜里町のことをあまり知らないなので、生活や仕事をする上で困っていることをサポートしています。

あと、「知床スロウワークス」の取組としてはここがポイントとなりますが、斜里町民にもテレワークを知ってもらうために、シンポジウムや勉強会を行ったりもしています。



しれとこらぼで「つながる」

テレワークに来られる方は、どのような業種の方が多いのでしょうか？

平成27年に受入開始した当初はIT企業が一番多かったのですが、今はいろいろな方に来ていただいています。以前は年間250名くらい受け入れてまして、コロナ禍で大分落ち込みましたが、令和4年は6月から10月頭までずっと予約で埋まっていました。

数多くの企業が訪れている中で、地域とつながったエピソードがあれば教えてください。

斜里町では、毎年「ねぶた祭り」を開催しているのですが、町内の参加者が年々減少していることが課題になっています。ちょうどお祭りの時期に損保ジャパン(株)と(株)日立製作所の社員がテレワーク合宿に来ていて、是非地元のお祭りに参加してみたいとのことで、1週間ほど山車や太鼓の練習をした上で、お祭りに出てもらいました。

これからはどのような企業にきてもらいたいと考えていますか？

来てくれるなら、どのような企業であつてもうれしいです。ただ、目指すところとしては、テレワークをするだけでなく、外部からの視点でまちづくりを考えてくれたり、自社の強みを生かして地域の小中学生に授業をしてもらったりと、地域と深くつながってもらい、斜里町を好きになって、また仲間を連れて戻ってきて欲しいと考えています。

そして、将来的には斜里にオフィスを設けてくれたりすればうれしいですね。



「しれとこらぼ」とは？

こちらはテレワークセンターという位置づけですが、基本的には企業向けの施設なのでしょいか？

はい。企業の方に使ってもらうための施設で、事前に申込みいただければ、1階のワークスペースと2階の宿泊スペースを無料でご利用いただけます。



斜里テレワークセンター「しれとこらぼ」
1階にワークスペース、2階には居住スペースを併設し、事前の申込みにより無料で利用できる(条件あり)



第十弾 北見市

KITAMI BASE



にしむら たかこ
西村 貴子さん
(株) アイエンター



Uターンのきつかけ

— 西村さんは北見市近郊の美幌町ご出身で、東京の大学進学・就職を経て、北見市にUターンされたとのことですが、キタミベースで働くことになったきっかけを教えてくださいませんか？

東京で出産した直後に東日本大震災がありました。当時私の家から職場までは、朝のラッシュ時だと1時間くらいかかり、仕事中に何かあってもすぐに子どもを場所に行けないことに不安を感じました。そうした危機感から、何か起こる前に

自分が納得できる場所に帰ろうと思ったのが、今から11年くらい前のことです。

北見にUターンするまでの間は、地方でも収入が得られるように手に職があった方が良くと考え、都内の会計事務所転職するなど、Uターンに向けた準備をしてきました。事務所では、まだ新型コロナウイルス感染症が流行する前にテレワーク制度をつくったのですが、ちょうど同じ時期に、テレワーク移住を推進していた北見市の関係者の方々にお会いする機会があり、「テレワークでUターンするなら応援するよ！」と熱心に仰っていただいたこと、当時の勤務先の社長が応援してくれたことが、北見市を選ぶ後押しとなりましたね。

「キタミベース」とは？

— 続いて、キタミベースのコンセプトを教えてくださいませんか？

— ここは、文字どおり北見の「基地」になりたいとの思いから名付けました。ただの場所貸しでなく、人にフォーカスした取組をする場、そして働き方がフリーになった人たちをつなぎとめる場となることを目指しています。

— どの様な方が利用されていますか？

主に首都圏や札幌市から、北見市や市内企業、大学などの仕事で出張に来られる方に利用いただいております。割合としては道内と道外で半々くらいですね。



最新セキュリティシステム（顔認証）やCO2濃度計測システムも完備しており、快適に利用できる。

— ワーケーションで来られた方の「地域の人とつながりたい！」「どんな体験ができるか教えて欲しい」といった要望にも、お応えいただけるのでしょうか？

もちろんです！スタッフとして対応できるのは私と、同じくUターンした岩田、そして平田の3名になります。平田は、北見工業大学出身で、カーリング選手として2018年の平昌オリンピックにも出ており、地域でもすごく顔が広く、様々なつながりをもっています。

冬のオホーツクはその寒さと流水が体験できるため、意外と首都圏からのワーケーションの方々に人気です。そういった方々から、地元の人にアテンドしてほしいという要望をいただくことが多いので、私たちのようなコンシェルジュがいる施設を選んでいただいております。

— これからキタミベースに来られる方にメッセージをお願いします！

北見市には美味しい食や春夏秋冬のアクティビティが充実しています。快適な仕事環境を提供できるキタミベースもあるので、ぜひ仕事も観光も充実した時間を過ごしていただきたいと思っています。

私たちがキタミベースを外から来られる方と市民の方をつなぐ場にするため、これからも色々イベントを実施していきます。是非、足を運んでみてください！

このインタビュー記事は、誌面の都合により抜粋版を掲載しています。

インタビュー全文については、北海道公式HPにて公開していますので、是非ご覧ください。



インタビュー全文はHPをCheck!

該当する施設を月1回程度、HPでご紹介！



「つながる。ハーベスト」対象施設

- テレワークができる施設
- 地域を知るコンシェルジュがいる施設
- 誰もが気軽に利用できる施設
- 地域住民も利用している施設

D OORS. hokkaido

北海道の扉を開こう。

「D OORS. hokkaido」は、 北海道各地域との

新たな「かかわり方」を見つけられるサイトです。

様々なかたちで地域と関わる関係人口は、
地域づくりやビジネスなど、多様な関わりを通じて地域社会に新しい風を吹き込んでいます。
本サイトで、北海道の各地域と気軽に繋がるための新しい「かかわり方」をご紹介します。

詳しくは
こちらをチェック

北海道 関係人口



<https://kankei.pref.hokkaido.lg.jp>



Twitter



Instagram



サイトに関するお問合せ先

北海道総合政策部地域創生局地域戦略課
〒060-8588札幌市中央区北3条西6丁目

☎011-204-5131



「創る」バックナンバーは、「ほっかいどう応援団会議ポータルサイト」へ

バックナンバーは
こちらから！

ほっかいどう応援団会議

🔍 検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>